

山行報告

★蓼科山(3月1日～2日)

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)
会員外(健常者1名)

☆3月1日

今回は、1日目に守屋山を往復し、タクシーで蓼科牧場まで移動して、翌日、蓼科山を登ろうという、ちょっと欲張った計画だ。タクシー代が高くつくが、人数が多いと比較的安くなる。

まずは、茅野駅から杖突峠までタクシーで移動する。天気は良くないが、曇り空だった。杖突峠には 1.6MW の太陽光発電所を建設中だった。山の中を切り開いて、作るのだから、自然エネルギーと言っても自然破壊であることは他の発電所と変わらない。



霧の中を登っていくと次第に霧が晴れ、曇り空となる。トラバース気味に歩くようになると、左手に山頂部を雲に隠した守屋山が見えてくる。トラバースを終えて林道を越え、木の橋で沢を横切ると春はザゼンソウの群生地となる

ところに出る。今は一面雪原だが春は楽しみな場所だ。群生地にある東屋で昼食タイムとする。茅葺き屋根の東屋には、雪がたくさん積もっている。

昼食後、登り始めると、登り口には「守屋山登山口」の新しいアーチ状の看板が迎えてくれる。ここから、登りも急になる。トレースはしっかり付いているが、穴がたくさん空いている。少しでも視覚障害者の人が歩きやすいようにと、穴を崩して埋めるように登っていく。さすがに疲れたので、若い?女性にトップを変わってもらおう。ザックも途中で置いて往復する。

急斜面を登り、樹林が切れてくると、山頂に飛び出した。曇り空だが、視界は思ったよりもあり、入笠山方面の低山がよく見えた。ハケ岳は裾のだけが雲に下に顔を出していた。隣には西峰も見える。



みんなで集合写真を撮って下山にかかる。下山は登りよりも足が滑りやすく、かなり時間を取られたが、予定時間を少し過ぎただけで、杖突峠に着くことができた。予約していたタクシーが待っていてくれて、次の蓼科牧場まで送っ

てもらった。

蓼科牧場の立科白樺高原 YH では、新婚のHさん夫妻のためにFさんが作ってきてくれたケーキにHさん夫妻が入刀する。さらに、お二人でHさんが持ってきてくれた酒をついでくれる。楽しいひとときを過ごし、部屋で歓談してから眠りについた。



長谷川夫妻の結婚お祝いを

☆3月2日

明け方まで雪が降っていたため、新しい積雪が10cmほどある。

YH から歩いてスキー場のゴンドラまで行き、ゴンドラに乗って上に上がる。上がったところに「幸せの鐘」がある。ここは、恋人の聖地に指定されているそうだ。天気は曇り。

ワカンやスノーシューを履いて出発する。今回、スノーシューを持ってきたNさんに先頭を歩いてもらう。木にどっさりとまとわりついたサルオガセが迎えてくれる。2回ほど林道を横切り、広場に出たところが七合目、一の鳥居だった。



蓼科山を目指す

一の鳥居をくぐり、山道を歩く。緩やかな登

りから、そろそろ急な登りにかかる頃かなと思った時、先頭を歩くNさんが体調が心配なのでここから下山すると言う。KMさんが一緒に下ってくれるということで、お願いして一緒に下ってもらう。

雪は次第に深くなり、トレースを外れることも多くなった。Iさんも、少し前に痛めた膝が痛くなってきたので、下山すると言う。Iさんであれば一人でも大丈夫だろうと判断し、下ってもらう。

傾斜が次第に増し、雪も深くなってきたため、先頭を交代しながら登る。Hさんは弱視だが、さすがに体力がある。奥さまのLさんが後ろから「20歩進んだら緩やかに右に曲がる」というように適切な声かけを行う。息がぴったり合っているようだ。



将軍平(蓼科山荘前)

急登をがんばると傾斜が落ちてくる。もう蓼科山荘のある将軍平も近い。将軍平で昼食タイムとする。早々にお昼を終えて、みんなはアイゼンを付ける。私は、アイゼンではラッセルが厳しいと思い、ワカンを付けたまま、先に一人でラッセル(わずかですが)しながら登っていく。なかなか来ないので、声をかけるが、「おーい」くらいしか聞こえないようだ。こちらは、声がしているので、近くにいると思ったが、やはり周囲の人たちの発する音にかき消されて大勢いるメンバーには聞こえないようだ。

それでも声が近づき、みんなが登ってきた。もう樹林帯が終わり森林限界が近い。周囲は背の低い樹氷が見えるようになる。雪崩が心配だ

ったが、薄く積もった雪が10cm程度の厚みなので心配ないと判断して登っていく。



急斜面が終わり、ポールが現れてきた。頂上小屋や山頂までもあとほんの少しだが、体調が悪く引き返すという人がいる。しかし、一人で引き返すことに心配があったため、ここで全員が引き返すことにした。結果的に、これが正解と出て、ゴンドラリフトの最終前に乗り場に着くことができた。

下りは、あまり滑らないシリセードも楽しみつつ、ぐんぐん下った。ただ、どうしても潜ってしまう人もいて、ぎりぎりゴンドラリフトに間に合った。先に下ったNさん、KMさん、Iさんが外で待っていてくれた。

記：網干

《参加者の感想》

守屋山、蓼科山ではお世話になりました。

毎週のように降る大雪で3週間ぶりの山はきつかったです。それなりの山に行くには日頃の訓練が必要と実感しました。守屋山は雪が湿って固く、スノーシューが埋まると引き出すのが大変そうでした。山頂直下の急坂を超えてやっと山頂についたときは八ヶ岳の裾野が少し

★九鬼山(4月13日)

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)

今日は春霞が強すぎて、どこかぼんやりして

見えてよかったです。

蓼科山は夜中に雪が降ったのか入口にはトレースもなく、出だしからわかんでした。わかんをつけると歩きやすくてわかんってすごいなと感心しながら歩いてました。樹林にとりつく氷が綺麗で、樹林がないところに出ると雪がマコロンのような砂糖菓子みたい。それはもう別世界でした。どこで引き返すのだろうと考えながら歩いてましたが風もなく、トレースも見えたのであそこまでいけたのだと思い、すごくラッキーだったと思います。

山頂は樹林がなくなりもう空を仰ぎ、あと少しだったなとわかりました。リーダーはいうように山が微笑んでくれたとおもってます。それでも安心してそこまでいけたのはみんなより早くでて将軍平から蓼科山への急な坂にひとりでラッセルして足跡を作ってくれたリーダーのおかげだと思います。なによりも安心して楽しむことができました。

冬の山は厳しい、それを実感した2日間、おつかれさまでした。そしていろんな場面で助けてくださった参加者の皆様ありがとうございました。 記：S.Kさん

コースタイム

3/1 杖突峠(10:55)…東屋(12:05-12:40)…
守屋山東峰(14:00-14:05)…杖突峠
(15:35)

3/2 ゴンドラリフト上(9:20)…七合目
(9:55-10:05)…蓼科山荘(12:15-
12:40)…山頂直下(13:40)…蓼科山荘
(14:00-14:10)…ゴンドラ上(15:55)

いる。展望は期待できないが、春の妖精たちに会えることを期待して禾生駅を後にする。

禾生第一小学校の向こうに、これから登る九鬼山方面が見えている。駅前の道を北東側に歩く。正面には昨日安倍総理がケネディ大使と乗

ったりニア実験線が見えている。途中で右に曲がるのだが、私の2008年版昭文社の地図には出ていない道があり、途中で出会った女性がこの道は違うと教えてくれた。

川にかかる古い煉瓦造りの陸橋のような橋は、水路として使われていた。先行パーティーの大集団は、私たちが下山コースとしている弥生峠方面に登っていった。私たちはすぐ左に曲がり、愛宕神社から登っていく。民家のカタクリが根を伸ばして出てきたのか、登山道の脇に今年はじめて見るカタクリが咲いていた。



芽吹きの木々の下を登る

しばらくは植林帯を登る。わりと近くでヤブサメのさえずりが聞こえる。この春、はじめて聞いた夏鳥のさえずりだ。



ヒナスミレ？

足下には、ピンクの可憐なスミレが咲いている。帰ってから調べたらヒナスミレのようだ。タチツボスミレも咲いている。田野倉方面から上るコースと合流すると、そこにはイカリソウが咲いていた。

今までも結構な登りだったが、急坂はここから始まる。まっすぐ登ると急坂登山道、左は新

登山道と書かれた標識があったが、急坂登山道は道があるようには見えなかった。新登山道を登るが、ジグザグではあるものの、急坂であることには変わりない。虎ロープの張られたところもあり、そこを過ぎると傾斜が落ちてくる。上を見ると、弥生峠から登ってきた大勢のグループが山頂に向かって歩いていた。



九鬼山山頂にて

山頂は、比較的広く、北側が開けていた。滝子山から黒岳、雁ヶ腹摺山方面の小金沢連嶺がよく見えた。右に目を移すと、遠くに雲取山らしき山がうっすらと見えていた。

山頂で、中国から来た若者と会話をし、下山にかかる。弥生峠方面は、アブラチャンやキブシ、サクラなど、樹木の花がたくさん咲いている。識別はなかなか難しい。



シュンラン

登ってきた人が、この付近はイカリソウやシュンランが多かったのだが、盗掘にあってほとんどなくなってしまったという。掘り返した後が何カ所かあった。心ない人に淋しい気持ちになる。

それでも、ひとつだけシュンランを見つけた。

シュンランにありがとうと心の声でつぶやき、山を下りていった。

麓の町では熊が見つかったので注意するよう、放送が流れていた。人間の犠牲にならずに、熊に山に戻って欲しいと願う。 記：網干

★第8回自然と親しむ子ども山登り教室（石老山）（4月20日）

参加者 子ども1名、スタッフ6名

別働隊 健常者2名)

今年度の自然と親しむ子ども山登り教室の最初の登山は石老山だ。ただ、元々子どもが3人だけの参加で少なかったのだが、熱発などで2人が参加できなくなり、Kちゃんただ1人の参加となった。

天気予報が1週間前より良くなり、曇り空ながら雨に降られずにすんだ。

石老山入り口でバスを降り、トイレのある広場で準備と声出しをして出発する。早速、立派なしだれ桜が迎えてくれる。山腹の木々も芽吹きや新緑で春らしい雰囲気を出している。

少し登るとヤブサメの音が聞こえ、さらにオオルリのさえずりも聞こえた。今年、はじめて聞くオオルリの声だ。いよいよ夏鳥のシーズン到来だ。



山道を楽しく登るKちゃん

滝不動などの大石の脇を登り、顕鏡寺に着く

コースタイム

禾生駅(9:25)…分岐(10:30-10:40)…九鬼山(11:35-12:10)…禾生駅(14:20)

と、蛇木杉という根を地面の上に大蛇のように伸ばした杉が見られた。岩が積み重なっているところのため土を探して根を伸ばしたのだろうか？ 樹木のたくましさを見せつけられたようだ。



初々しい木々

顕鏡寺から少し登ると、道が分岐している。右の桜道という方に進んでいくと、途中で視界が開けて、麓の町や高尾山方面がよく見えるところに出た。桜や新緑の木々も美しい。足下には立つツボスミレやシュウニヒトエ、ホウチャクソウも咲いている。



ヒトリシズカ

さらに登っていくと、センダイムシクイのさえずりも聞こえた。賑やかなガビチョウも聞こえたが、ヤマガラやヒガラのさえずりも聞こえ

た。

融合平に着くと、そこは桜の花びらが敷き詰められたピンクの絨毯が広がっているようだった。麓には相模湖もよく見えている。

足下にはナガバノスミレサイシンも咲くようになってきた。少し急なところをがんばると、傾斜が落ちて山頂の一角に着く。山頂に着くと、テーブルのようなベンチに座って昼食タイムとする。曇っているため、残念ながら富士山は見えなかった。Iさんが60年前に遊んだというポンポン船を持ってきてくれた。多くの子どもたちに見せたかったのだが、今日はKちゃんが独占して見ることになる。船の中に火を付けると、丸い皿の中の水の上をポンポン音を出しながら進んでいく。どうしてそんな音がして、進むのか？だった。



石老山山頂にて

山頂からは大明神展望台を目指して下るが、岩や濡れて滑りやすいところが多く、Kちゃんと手をつないで慎重に下る。所々、ミツバツツジがきれいに咲いていた。

大明神展望台で休憩する。この周囲の桜はまだきれいに咲いていた。アケビの花も咲いていた。

急用の電話が入ったIさんが先に駆け下りていく。Kちゃんが「あ、アイスクリーム」というと気前の良いIさんはお金をおいて先を急いで下って行った。林道に出るまで思ったよりも時間がかかったが、それでも予定時間を大幅に短縮してプレジャーフォレスト前のバス停に着いた。

子どもの参加が少なく、少し淋しかったのですが、雨に一度も降られず、春爛漫の一日を無事に楽しむことができました。 記：網干



大明神展望台にて

《参加者の感想》

先日は今期 1 回目の子供登山で石老山へいきました。

Yは前日に遊びすぎて当日熱を出し、家においできました。毛布にくるまって顔も出さずにいるYの気持ちも一緒にザックに詰め込んで二人で相模湖へむかいました。

曇り加減の重たい空も新芽の緑が押し上げてくれて春のトンネルをくぐっているようでした。Kもトップを歩き、時折後ろを振り返り、年老いて遅れてくるわたしを見守っているようだ。休憩時にはIさんが60年前の船を火をつけて走らせてみせてくれた。ちゃんと桶も用意してくれて。子供たちを今日はどんなことをして楽しませよう、そんなIさんのアイデアにはいつも感謝してます。竹鉄砲もYの分と2本しっかりザックに詰め込んで家まで持ち帰りました。

Kも久しぶりの山歩きで少々疲れたようだったが、Iさんが置いていってくれたおかげでアイスクリームのアイスを食べることができてKもそこでリセットしたようだ。

子供登山アルプで代々継承されてきた登山靴がどんどん大きくなっていくKも小さくなってきたようです。次に使う子供のためにも大事に使わなくていけないね、Kちゃん。

参加者の皆様、いろんなところで温かい言葉

をくださり、ありがとうございました。Kはその温かい言葉を持って帰り、翌日は元気よく学校へいきました。 記：S.Kさん

石老山入り口(9:55)…顕鏡寺(10:30-10:40)…融合平(11:15-11:20)…石老山(11:50-12:35)…大明神展望台(13:30-13:40)…プレジャーフォレスト前(15:00)

コースタイム

第8回自然と親しむ子ども山登り教室感想文(第1回石老山)

ほかに子供がいなかったけど、みんなといて楽しかった。AさんやSちゃんが手をつないでくれた。下りは岩があってあるきにくかった。

Aさんにアイスをかけてもらってうれしかった。

Iさんの船の音がおもしろかった。船はあたたかった。来月はしょうたろうくん、あつしくんに会えたらいいな。

K.Kさん

★天城縦走路(4月27日)

参加者 会員(障害者3名、健常者6名)

前日、伊東に来て、Fさんが会員となっている東急ハーベストクラブに素泊まりで泊めていただいた。

昨日は湿度が高かったのか、富士山もうっすらとしか見えなかったようだが、今日は朝から富士山がよく見える。これから登る天城山もよく見えている。ホテル横の鐘の前で集合写真を撮って予約したタクシーに乗って登山口に向かう。



ヒメシャラの林を登る

登山口でKさんがストックをタクシーの中に忘れたことに気づいたが、タクシー会社が自

宅に送ってくれるという。

まずは一昨年の5月に登った万二郎岳を目指して登る。今回は、ミツバツツジなどはまだ咲いていないが、アセビが満開だった。この山は、最初から最後までアセビとヒメシャラが非常に多く、万三郎岳付近からはブナが非常に多い山だった。

夏鳥では、オオルリ、キビタキ、センダイムシクイのさえずりを聞いたが、留鳥ではイカル、ミソサザイ、ルリビタキ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラのさえずりが多かった。



万二郎岳からは、馬ノ背などを岩場やアセビのトンネル、一面に根を張るブナの林などを通過して万三郎岳に着く。ゴルフ場を10分早く出発したにも関わらず、ここまでの1時間オーバーとなっている。バスの時間が少し心配だが、

日が長いことや人数が多いので、タクシーを利用しても良いと割り切り、少し早めのペースくらいで行くことにする。

万三郎岳からははじめて歩くコースだ。アセビやブナ、ヒメシャラが多く、足下にはナガバノスミレサイシンと思われる花が咲いている。時間が気になったが、100mほど脇にそれたところにあるヘビブナに立ち寄ってみる。幹がぐにゅと曲がってちょっとかわいそうなブナがあった。でも、この格好でしっかりと生きている。



万三郎岳山頂にて

小岳からの下りは、今回のコースで心配だったところの一つだが、無事に通過する。気持ちよいブナ林を歩き、戸塚峠で昼食タイムとする。この付近も一面のブナ林でブナの実がたくさん落ちている。



八丁池の畔に立つFさんとGさん

戸塚峠から歩きやすい登山道を歩き、目を近づけてよく見なかったために自由峠と読んでいた白田峠を通過し、サルノコシカケがいくつも並んでいるブナの木を見て、さらに行くと八丁池に飛び出した。ここは、とても気持ちよい

場所だった。

いよいよ縦走路も終盤に近づいてきた。しかしここからが気が抜けない危険なトラバース道が続くことになる。しっかりサポート体制を整えて下り始める。



念願の天城峠にて

一面アセビの山腹を見たり、向こうの尾根の山腹に見える春爛漫の木々たちを楽しみながら、慎重に下って行く。そして、念願の天城峠に到着する。ここが石川さゆりが歌っていた天城越えの場所だろうか？ みんなで集合写真を撮る。

もう予定のバスには間に合わないと思うが、かなりぎりぎりの時間なので、少しがんばって下ることにする。



旧天城トンネルにて

石で作った旧天城トンネルに着く。誰かが、ここから10分と書いてあるというので、トイレに入ってから先に出発したメンバーを追う。しかし、歩いている林道ではどう見ても10分でバス停に着く雰囲気ではない。地図を見ると、旧トンネルからすぐに下る道がある。間違いに気がついて引き返すことにする。この時点でも

う予定のバスは間に合わなくなったので、旧トンネルでみんな写真撮る。

旧トンネルからは急な階段を下り、山道を歩いて下りたところにバス停があった。1本遅れだったが、全員無事にバスに乗り込み、修善寺駅へと向かった。 記：網干

コースタイム

天城高原ゴルフ場(6:20)…万二郎岳(7:55-8:10)…万三郎岳(9:45-10:00)…戸塚峠(11:10-11:35)…八丁池(13:05-13:15)…天城峠(15:30)…天城峠バス停(16:20)

★登山知識及び技術向上コース（鷹巣谷）（5月11日）

参加者 会員(健常者5名)

今日は東京でも最高気温が25℃になると天気予報では言っていた。だから薄着できたが、朝はまだ寒い。

それでも、素晴らしい好天に恵まれて、奥多摩駅から満員のバスに乗って東日原に向かう。川乗橋で下りる人が多い。川苔山はさすがに人気の山だ。

東日原でトイレに行く人もいたので、バス停で沢に入る準備を済ませる。新緑が美しい。稲村岩と鷹巣山にせり上げている稲村岩尾根がよく見える。鷹巣谷はその手前の沢だ。

巳の戸橋を渡って、仕事道に行く。すぐに日原川に下り、鷹巣谷へと入っていく。沢の水はまだ冷たい。小滝を超え、ロープを使わずに滝の右手を登っていく。どうもNさんの調子が悪そうだ。先日の個人山行で行った白馬岳の疲れがまだ残っていて、握力がないという。その滝の上にはロープがフィックスされていたので、大事を取ってそれにカラビナをかけて、自己確保をして通過する。

その先を見ると、堰堤があるので、今登った滝は地蔵の滝だったのだろう。私のガイドブックでは、最初の堰堤から3つほど堰堤が続くので、仕事道を歩いた方が良くと書いてあるが、右手の斜面は急角度で切れ落ちていて、作業道があるようには見えない。

その先にもわさび田があると書いてあるが、どこにもないようだ。私の持っているガイドブ

ックは、昭和55年発行の小泉共司さん監修の「東京付近の沢」。さすがに古すぎて様子がかなり変わっているのだろう。



スノーブリッジの下に行く

少し行くと、残雪が現れてきた。この時期、こんなところで残雪を見られるとは思わなかったが、今年の数十年ぶりの大雪のすごさを感じる事となった。しかし、残雪は、このあと、次々に現れて、どんどん増えることになった。



スノーブリッジの穴から見た新緑

釜のある滝の右側の壁を登っていると、上から引き返してきた単独の男性がいた。この先、残雪が多くて引き返してきたという。我々もそうなる可能性があると思うが、もう少し行ってみることにする。

さらに行くとも沢を埋める残雪が現れた。奥多摩でこんなに残雪を見るなんてはじめてだ。先ほどの男性はここで引き返したようだ。よく見ると、残雪の下を沢が流れていて、スノーブリッジとなっている。出口もよく見える。Cさんがまず先頭を切って中に入っていく。続いて全員がスノーブリッジの下を通過して、沢を遡っていく。



この先もいくつか小滝を超えていくが、左右の岩壁が上れそうにない釜のある小滝が目の前に現れた。暑ければ釜に入って滝の直登ルートを探すのだが、今日は寒くてとても釜には入れそうにない。しかも、その奥には、激しい水しぶきを上げる滝が落ち、その上に雪渓が覆い被さっているのが見える。みなさんに相談し、ここで引き返すことにする。

途中でお昼を食べていると、Tさんが寒くないですかと言って、自分の羽毛服を私に貸してくれる。今までこんなにやさしくしてもらったことはない。Cさんも驚き、今までにいなかったキャラだと言っている。Tさんは、今回から正会員になってくれた。このやさしさと強さ、そして何よりも若さに期待したい。

★第8回自然と親しむ子ども山登り教室（伊豆ヶ岳）（5月18日）

参加者 子ども2名、スタッフ6名

別働隊 健常者4名

下りは、慎重に何力所か懸垂下降で下った。滝の下部中央に倒木のある所では、2人が倒木から滑ってびっくりしたが、ケガはなかったようだ。



下ってくる男性と出会ったところにある滝は、流れ落ちる水流に濡れながら下り、最後は釜に腰から胸まで浸かって下ることになる。雪解け水も流れているため、沢の水はとにかく冷たい。みんなが下るところをビデオに撮るが、がたがた震えてとても撮ってられなかった。それでも、写真を撮り、少し落ち着いてからビデオも撮れた。

日原川に出て、乾いた衣類に着替えて、ホッと一息つく。沢から車道に登り返すが、沢水に浸かって冷えた体はとても重く感じる。それでも、車道に上がって、東日原のバス停に着いた。暖かな日差しを受けて、濡れたものを乾かしながら、柔らかな新緑を見つめていた。

記：網干

コースタイム

東日原(9:30)…鷹巣谷出合(9:45)…引き返し地点(11:45)…鷹巣谷出合(14:20-14:50)…東日原(15:15)

今回は、現地集合の人が一人もいなくて、全員が池袋駅集合だった。

素晴らしい天気にも恵まれて正丸駅で電車を

降りる。前回の子どもの参加は1人だったが、今日は2人。どちらにしても淋しい限りだ。

それでも、明るく、みんな楽しく駅を後にする。斜めの歩きにくい階段を下りて、線路をくぐる。春爛漫の道路を上っていく。子どもたちの歩みは遅い。先頭を歩いていた人達は、登山道の入り口で待っていてくれた。



伊豆ヶ岳山頂での子どもたちとSさん

時々出てくる岩場や、片側が切れたところを慎重に登っていく。登山道に入ったら子どもたちのペースが上がった。沢沿いの道から尾根に上がる急坂へと続く。急坂をがんばって登ると、さらに尾根に上がる最後の急斜面に出る。ここはとても滑りやすい。Sさんもサポートしてくれて、子どもたちもがんばって登っている。登り着いて尾根で休憩とする。誰かが、二人いないことに気づく。KさんとYさんがまだ来ない。登ってきた斜面を見ると、滑りやすいところをがんばって登っている。



伊豆ヶ岳山頂にて

傾斜の落ちた尾根道をさらに登っていく。さらに、樹林の切れた岩の多い尾根に出ると、展望が良くなる。双子山や丸山方面がよく見えた。

さらに登ると、男坂と女坂の分岐に出る。迷わず女坂に行く。しかし、少し行くと女坂も崩れているらしく通行止めになっていた。道は男坂と女坂の間に付いている。そこも急坂だが、がんばって登ると、山頂の一角に着く。ヤマツツジが美しい。オオルリやキビタキの声をもする。

ちょうど良い時間なので、山頂で昼食タイムとする。Sさんはキングコングの仮面をかぶったりして、子どもたちといつものように一緒に遊んでくれている。しかし、Y君の叫び声がする。どうも遊びが過熱しすぎて、Y君の背中に擦り傷を作ってしまったようだ。広い範囲に擦り傷ができてしまったが、血が出ていなかった。それほどではないと思ったが、後で親代わりのKさんから手当てをして欲しいとの依頼を受け、水で流し、マキロンで消毒を行った。



試しに男坂を登ってみる

山頂の標識前で写真を撮り、下山にかかる。先ほどの擦り傷はY君の心をナイーブにしたようだ。ずっと私と手をつないで歩いている。先頭は、IさんとKちゃんが早いペースでどんどん歩いている。Y君は、あの二人早すぎるよと言っている。

そうしているうちに正丸峠に着く。正丸峠は自転車競争のゴールになっていて、多くの人があつた。休憩した後は、峠から直接下る登山道を下りる。階段も滑りやすく、みんな手すりにつかまって下りていた。次第に傾斜も落ち、朝登った舗装道路に出る。

途中の店でおばあちゃん手作りのおいしいまんじゅうを食べ、正丸駅に向かう。車道歩き

は、子どもたちも疲れたようだった。

記：網干

コースタイム

★飛龍山(5月24日～25日)

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)

☆5月24日

今日は素晴らしい天気にも恵まれた。中央線の車窓から雪を抱いた南アルプスがよく見えた。

塩山駅からタクシーで三ノ瀬まで行く。柳沢峠を越え、悲しい物語があるらしいおいらん淵を経て、三ノ瀬の登山口まで送ってもらった。こんな山奥にも何世帯かの人たちが住んでいる。ひとたび、道路が寸断したら生活に困るのに、それでもこの自然豊かな場所を愛する意志が強いのだろう。



ワチガイソウ

三ノ瀬から歩きやすい林道を沢沿いに上る。少しジグザグに登って尾根に上がる。林道の周囲にはトウゴクミツバツツジが多い。翌日、出会った登山者から教えてもらったことだが、ミツバツツジには、おしべが8本から10本のトウゴクミツバツツジは「東国ミツバツツジ」と書らしく、今までミツバツツジと呼んでいたおしべが5本の物は、サイゴク(西国)ミツバツツジと言うらしい。それを聞いて、関東にはトウゴクミツバツツジが多いことを納得した。

正丸駅(9:45)…尾根上(11:00-11:10)…伊豆ヶ岳(11:50-12:35)…正丸峠(13:45)…正丸駅(15:00)



新緑の唐松林を行く

林道は新緑の木々に囲まれ、野鳥たちの歌声がたくさん聞こえて、とても気持ちよい道だ。唐松林も柔らかな緑色で迎えてくれる。

将監小屋に近づくと、小屋に寄らずに将監峠に行く道があった。とても良い天気だし、翌日行くより今日のうちに行った方が良いと思い、峠に向かう。将監峠は防火帯なのか草原状となっていてとても気持ちよいところだ。数年前に途中まで行った和名倉山方面の尾根も見える。

将監小屋は、昔ながらの小屋で、宿泊は大部屋一つだけだ。こういう山小屋も山小屋らしくて大好きだ。少し歌を歌ったりして、明日に備えて早めに床についた。



将監峠にて

☆5月25日

小屋の人から6時に小屋を出ても5時間もあれば丹波に着くから朝食を食べてから行っ

た方が良いと言われ、朝食を食べてから出発する。朝食は5時からだったが、こちらを気遣ってくださったのか、4時45分頃には食べることができた。そして5時30分に出発する。

小屋の前では、ミソサザイが稍で高らかに歌っている。朝は、野鳥たちのさえずりが絶えることなく聞こえている。その声を聞きながら、最初の急坂をがんばって登る。しばらく登ると、将監峠からのトラバース道に合流し、片側が切れた水平の道が延々と続く。



大ダル付近から見た飛龍山

みんな慎重にサポートしながら歩いて行く。足下には、タチツボスミレをはじめとしていろんなスミレが咲いている。バイカオウレンもたくさん見られた。モリ尾根を超えると、これから向かう飛龍山が見えてくる。足下の悪いところもあるが慎重に行く。大ダル近くはまだ芽吹きの本木が多く、その上に飛龍山が見えて、とても雰囲気の良いところだ。



イワウチワ

大ダルからは飛龍山の山腹をトラバースして飛龍権現に向かう。ここでひさしぶりにイワウチワに出会った。イワウチワは、花期が短い

のか、一斉に咲いて終わるのが分からないが、なかなか関東の山では出会えなかった。山頂付近でも出会うことができ、今回はラッキーだった。

飛龍権現にザックなどを置き、山頂を往復する。今日は水蒸気が多く、高曇りの状態だが、途中で隣の雲取山も見えた。山頂の展望はあまり良くない。集合写真を撮ってすぐに下山する。

前飛龍付近には、アズマシャクナゲが咲いていた。まだ咲き始めたばかりのものが多く、ピンク色が比較的濃かった。前飛龍を超えると、岩混じりの急坂となる。途中、ざらついてかなり滑りやすい岩場で、Nさんから寄付していただいたロープを出して、視覚障害者の人たちやKさんを確保する。



飛龍山山頂にて

急坂が終わると、とても歩きやすい道になる。國學院大學（だったでしょうか？）の学生たちが校歌を歌いながら下ってきていた。熊倉山が近づくと、トウゴクミツバツツジが見られるようになってきた。最初はつぼみだけだったが、しっかり咲いたものも見られるようになる。そして、ピンクの花のオンパレード。次々に現れるトウゴクミツバツツジを楽しみながら、バスの時間を気にしつつ下って行く。

サオウラ峠からは、急坂のトラバースとジグザグの道を下るようになる。急坂のトラバースは、滑落したら大変なので、慎重に下って行く。ジグザグの道に入ると、今度は真っ赤なヤマツツジが楽しませてくれる。

美しい木々の花、新緑、可憐な草花、そして今

がピークの野鳥たちの歌声を聞きながらコンクリートの道に出て、丹波のバス停を目指した。

記：網干



今回、さえずりを聞くことのできた野鳥は、オオルリ、キビタキ、ルリビタキ、メボソムシクイ、コマドリ、キクイタダキ、センダイムシクイ、ヤブサメ、ウグイス、ヒガラ、コガラ、コルリ、アオバト、ツツドリ、ホトトギス、ミソサザイ、ホオジロ、アカゲラ（地鳴きとドラミング）、里に下りてきてから聞いたメジロ、イカル、カワラヒワ、コジュケイでした。

※参加者不足のため岩戸山、遠見尾根（登山知識及び技術向上コース）を中止としました。
※雨天のため、岩登り技術講習会（鷹取山）が中止となりました。

ハイキング報告

★第36回ふれあいハイキング（寺家ふるさと村）（3月9日）

参加者 会員(障害者4名、健常者9名)

渋谷駅に集合した人が4人だけと少なかったため、予定よりも25分くらい早い電車に乗って青葉台駅に着いた。ここで全員合流し、バスで鴨志田団地に行く。

寺家ふるさと村の入り口はバス停からすぐのところであった。四季の家は現在改装中で営業していなかった。駐車場で自己紹介をして歩き始める。



コースタイム

5/24 三ノ瀬 (12:15) … 将監峠 (15:00-15:15) … 将監小屋 (15:25)
5/25 将監小屋 (5:30) … 飛龍権現 (9:05) … 飛龍山 (9:30-9:35) … 飛龍権現 (10:00-10:10) … 前飛龍 (10:55) … サオウラ峠 (13:50-14:00) … 丹波バス停 (15:45)

まずは熊野神社に登って、お参りをする。下りはちょっとぬかるんでいる道を下りる。横浜とは思えない田園風景の脇を歩く。最初の目的地、熊の池は釣り堀だった。へら鮒専門らしい。



ここから丘陵に上がっていく。この近くに住むMさんの友人が、Mさんの誘いで駆けつけてくれた。丘陵は、日差しが暖かく、とても気持ちよいところだ。エナガやシジュウカラが飛び交っている。

丘陵を下りて大池に向かう。バードウォッチャーが大勢来ていた。カワセミは、今いなくなっただけだと言うが、それから5分くらいでまた現れてくれた。遠すぎてピントが合っていないが、なんとか写真に写っていた。大池をあとに歩き始めると、上空にワシタカの仲間が飛んでいる。バードウォッチャーの人がオオタカだと言っている。こちらも遠くて写真に写すのは難しいが、写すだけ写しておいた。



谷津田が多い田園風景の中を歩いていると、小規模だが梅林がある。せっかくだから行ってみようとみんなで行くことにする。梅林の手前にあるむじな池を経由して行く。紅白の梅は良い香りがした。

梅林のあとは、水車小屋に行く。さらにMさんの友達のお勧めの店に行ったが、休業中だったので、近くの寺家町内会館の広場で昼食タイムとする。いろいろなものが振る舞われて、腹が

★第37回ふれあいハイキング（甲斐風土記の丘）（4月6日）

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

バスの中で一眠りして目を覚ますと、そこは

いっぱいになり、さらに話が弾んで誰も動こうとしない。さあ出発しますと声をかけて、ようやく出発となる。



Mさんの友達の案内で、子どもの国に向かうが、予定とは違って寺家ふるさと村の北側を通過して向かっていったが、途中から大幅にそれて、高蔵寺に行くことになった。高蔵寺の庭は、日本庭園で、いろんな植物があり、小川や水車、鳥のえさ台などがあり、素晴らしい庭だった。

途中の看板を見たら、もう鶴川駅が近く、今回は子どもがいないので、子どもの国をやめて鶴川駅に向かおうということになる。鶴見川に沿って歩き、途中、川に下りて休憩し、鶴川駅に向かう。鶴川駅で解散する。

Mさんの友達のおかげで、予定にはないいろんなところを歩くことができて良かったです。

記：網干

コースタイム

鴨志田団地(9:45)…四季の家(9:50-10:00)
…大池(10:30-10:40)…水車小屋(11:10)…
寺家町内会館(11:35-12:25)…鶴川駅
(14:30)

桃源郷だった。右を見ても左を見ても、車窓からはピンクの花が花盛り。まだ、満開ではないが、それでも美しい。

中道のバス停でバスを降りると、早速桃の花が迎えてくれる。白い桃の花もあった。

車道を歩いて、甲斐風土記の丘の考古博物館から中に入る。すぐに竪穴式住居があった。ここから、万葉の道を歩く。ヤマザクラはまだ咲き始めたばかりだが、ソメイヨシノは満開だ。レンギョウやユキヤナギも満開だ。きれいに整備された芝生の道を歩く。シジュウカラが「ツツピー」とさえずり、マメ科の木の実をついばんでいる。足下には、タチツボスミレも咲いていた。



周囲は、桃と梅と桜の花がまさに競演していて、桃源郷という言葉がぴったりだ。東山北遺跡の方形周溝墓の中を歩き、上の平遺跡方面を目指す。上の平遺跡は場所が分からなかった。

途中で引き返してきたが、傾斜地には、ツクシがたくさん立っている。周囲は、オオイヌノフグリが一面に咲いている。



農作業中の人はこちらに歩いてきて、向こうにいるおばあちゃんは 92 歳だよと教えてくれる。白い梅の花は、キヨというスモモの一種だと教えてもらった。92 歳になっても農作業

ができるのは素晴らしいことだ。

桃の農園の脇を歩いてデイキャンプ場近くの広場で、昼食タイムとする。桜の木の下は、桜が見られて楽しいが、日陰になるので、ちょっと寒い。



昼食後は、銚子塚古墳を目指して歩いて行く。遠くに茅ヶ岳と金峰山方面がよく見えたが、天気が怪しくなってきた。銚子塚古墳に着く頃にはぽつりぽつりと降り始めてきた。濡れても困るので、カッパを着て歩く。

前方後円墳の銚子塚古墳のすぐ隣には、山梨県下で最大級の円墳だという丸山塚古墳がある。ここに上がってみると、周囲の木々の花が美しい。

天気が悪化してきたので、このあとは、風土記の丘農産物直売所に行くことにする。思い思いに、野菜などを買い込んでいた。その後は、すぐ隣にある茶屋で、コーヒーやぜんざい、ソフトクリームなどを食べて休憩する。その頃には、再び日が差して、天気が回復してきた。

中道バス停まで歩き、帰りのバスを待つ。少し雨に降られたけれど、あたたかな日差しを受けて、人の少ない桃源郷を楽しむことができた 1 日でした。

記：網干

コースタイム

中道バス停(10:25)…デイキャンプ場付近の広場(11:45-12:20)…風土記の丘農産物直売所(13:40-14:20)…中道バス停(14:35)

個人山行報告

★権現岳(3月21日～22日)

参加者 会員(健常者2名)
会員外(健常者1名)

☆3月21日

昨日の雨が上がり、関東は良い天気だった。小淵沢に着いても天気は良かったが、山の方は雲に覆われていた。

登山口となる天女山入り口でタクシーを降り登り始める。天女山では、天気は良いものの、何とか三ツ頭が見える程度でその上は雲に隠れている。南アルプスや富士山も見えない。それでも暖かな日差しを受けて登っていく。今日は、会員ではないが、大学を卒業して就職が決まっているKNさんが参加して、テントなどを持ってきている。100リットルのザックを背負い、いくらでも持ちますよと、心強い。途中でKSさんの装備も一部持ってあげていた。



天の河原を過ぎ、緩やかに登っていく。そして、前三ツ頭への急登が始まる。雪も降り始めてきた。今朝、日帰りですぐに登った人たちが次々に下山してくる。どこまで行ったか聞くと、多くのパーティーが三ツ頭を過ぎたところで、強風のため、引き返してきたという。昨日、権現岳の山頂に着いた人は、下ることができず、山頂でピバークして下山してきたという。我々も、今日は前三ツ頭でテントを張ることにする。

急登を終えると前三ツ頭に到着する。雪は止んでいるが、時々地吹雪がおそってくる。平坦なところを探してテントを張ることにする。4隅を竹ペグで固定する。KSさんもKNさんも竹ペグの使用ははじめてなので、教えながら設営する。「ポールを出して」とKNさんに頼んだが、ポールは入っていないという。ここではじめてポールを忘れたことに気づく。仕方ないので、ポールなしでテントを固定することにする。

ポールのない居住環境の悪いテントの中にテントマットを敷き、ザックなどを入れる。そして、みんなが入って水作りと夕食作りを始める。3人の頭で天井を押さえ、コンロを焚く。KNさんが持ってきたモンベルのコンロは、コンパクトで専用のコッヘルを使うとすぐにお湯が沸く。ただ、水作りには小さくて適さない。古いコッヘルで水を作る。お湯も作ってテルモスに入れて、明日に備える。

夜半、強風でテントが終始はたためていて私とKNさんはほとんど眠れなかったが、KSさんはしっかりと眠れたらしい。すごい強心臓に敬服です。

☆3月22日

3時過ぎに起床。簡単な朝食を済ませ、お湯をテルモスに入れて、テントを出発したのは、4時55分。起床してから2時間近くかかった。テントの中は0℃くらいだったが、外気温は-13℃。標高2,300位の雪山はまだまだ寒い。

シュラフなどをテントの中に残して出発する。もう、東の空があかね色に染まり始めている。上空には明けの明星がひときわ明るく輝いている。

KNさんに先頭で歩いてもらう。三ツ頭への登りで、KSさんが自分が足を引っ張っては申

し訳ないから引き返すという。しかし、今のペースで十分だし、何も問題はないから登りましょうと声をかける。

三ツ頭に到着すると、樹林の間からご来光が見える。周囲の空があかね色に染まって美しい。これから登る権現岳も見えて、うっすらピンクに染まっている。赤岳や阿弥陀岳もよく見える。南に目を向けると、富士山がいつもながらの端正な姿で佇んでいる。樹氷も朝日を浴びて輝いている。太陽の力はたてようもなく偉大だ。



三ツ頭付近から見た朝の富士山

三ツ頭を過ぎたところにあるコルにはテントを撤収して、出発準備をしているパーティーがいた。周囲の樹氷はとても美しい。そして、ここから権現岳山頂への登りが始まる。樹氷の間を縫うように登り、ちょっとした尾根の岩場を下り、最後の雪の斜面へと向かう。以前は、雪壁を登った記憶があるが、トレースは雪の斜面をトラバースしている。



山頂直下をトラバースする

慎重にトラバースし、2mほど上がると、権現岳山頂の二つの岩が見える。あとは、雪の斜面を登ると、山頂に到着する。山頂には祠があ

った。岩と岩の間が山頂で、標識があった。赤岳の左側には、横岳、硫黄岳も見えている。遠くに、北アルプスや乗鞍岳、御岳、中央アルプス、南アルプスもよく見えている。雲一つない最高の展望を楽しみ、記念写真を撮って下山にかかる。トラバース手前の急な雪の斜面が少し心配だったので、ロープでつなぎあって下り始める。



権現岳山頂にて

みんな特に問題なくトラバースを終える。これから先は煩わしいだけなので、ロープを外して、どんどん下って行く。振り返ると真っ青な空と真っ白な雪のコントラストが素晴らしい。



山頂から下山にかかる

テントを撤収し、ぐんぐん下る。天の河原で少し休んだが、そろそろ小海線の電車の時間が気になりだしてきたので、ゆっくりすることができず、どんどん下ることにする。天女山入口に着き、すぐに舗装道路を甲斐大泉駅目指して早足で歩く。無事に、甲斐大泉駅について、小淵沢行き電車に間に合った。

いろんなことがあったので、初めての冬山が大学の卒業旅行になったKNさんには、思い出

になったのではないだろうか。ひさしぶりの少人数の登山だったが、無事に山頂に登れたことを山に感謝して、家路についた。

記：網干

コースタイム

3/21 天女山入口(9:30)…天女山(10:05)…

標高 2,000m(12:15-12:40)…前三ツ頭(14:05)テント泊

3/22 テント場(4:55)…三ツ頭(5:50)…権現岳(7:30-7:45)…テント場(9:30-10:50)…天の河原(12:25-12:35)…甲斐大泉駅(13:45)

★白馬岳(5月3日～5日)

参加者 会員(健常者5名)

会員外(健常者1名)

☆5月3日

昨晚、新宿発の夜行バスに乗ったが、大渋滞の最中にバスのフロントタイヤから煙が出ていると八王子のバス停で緊急停止。乗客全員がバス会社の手配したタクシーに分乗して目的地に向かう。猿倉まで行ってくれたタクシーのメーターを見たら 89,000 円を超えていた。バス会社も大変だなと思う。



猿倉で兵庫県から来たYさんと合流し、素晴らしい好天の下で歩き始める。最初から残雪が多い。クロジのさえずりが良く聞こえる。

白馬尻の小屋は、雪に埋もれていたように見つからなかった。白馬岳主稜を見ると大勢の人たちが登っていくのが見える。次の休憩で、今回初めて一緒に登山をするTさんに、グリセードの仕方を教える。

長い雪渓登りは、日差しもあってなかなか暑

い。しかし、稜線方面を見ると次第に雲がわき上がってきた。午後一時的に崩れるという天気予報が当たりそうだ。この頃の気温は9℃ほどだった。

大雪渓が右手に曲がる惣平付近から傾斜が急になる。この頃から周囲が霧に包まれ始める。少し登ったところで、全員アイゼンを付ける。上から下りてくる人に聞くと、稜線はかなりの強風らしい。急斜面を登っていると雨が降り出してくる。Nさんが体力的にきつそうで、なかなかペースが上がらない。ゆっくりだが確実に標高を稼ぎ、次第に傾斜も落ちてきた。しかし、風は次第に強くなってくる。前方にいる単独の登山者が、ヤッケを脱いで一枚着込んでいる。風と雨では、軽装では厳しいが、この悪天候の中で、ヤッケを脱ぐのもかなりのリスクを伴う。

私も薄手の手袋で登ってきたので、雨で濡れて非常に冷たくなってしまった。みんなにも声をかけ、手袋を替えた方が良いことを伝える。私はオーバーミトンも付けた。周囲はホワイトアウトで何も見えない状況だ。前に登った登山者のトレースだけが頼りの登りが続く。

稜線に出たのか風が非常に強くなってきた。しかし、村営頂上宿舎は見えない。少し空が明るくなり、一瞬右手の視界が開けた。そこは尾根の切れ目で、その先に向こう側の山腹が見える。残念ながら場所の同定はできなかった。先ほどまでの雨は細かい雪に変わり、来ているものをどんどん凍らせていく。早く小屋に着かないとどんどん厳しい状況になることを心配するが、ペースは上がらない。

それでも、風に飛ばされないように、何度も耐風姿勢を取りながら登っていくと、目の前に建物が見えた。村営頂上宿舎かなと思ったが、すぐに霧に包まれて見えなくなった。さらに進むと、再度建物が目の前に現れ、それが白馬山荘であることを知る。しかし、強風にあおられ、わずか20m位の距離もなかなか進まない。私は先に行くCさんの後を登るKさんのザックを押して、小屋の方へと導く。後で聞いたら、行く方向を分かっている強風でそちらに行けなかったそうだ。最後尾は、TさんとYさんがNさんのサポートをしてくれている。何とも頼もしい二人だ。私も、小屋に着いてからNさんを迎えに行く。ザックを持ってあげたいが、それさえもできないほどの強風だ。最後、Nさんは這って小屋の入り口にたどり着いた。



小屋に入るとそこは天国だった。少ししたら、前髪につららを垂らした男性が入ってきた。彼も這々の体で小屋に飛び込んできた一人だ。



小屋の中は暖かったが、泊まる部屋はものすごく寒く、朝、小屋前の廊下は-3℃だった。

それでも、夜は他のグループの人たちに山の歌を歌ってあげた。今は、歌う人がほとんどいないので、お礼を言われてしまった。

☆5月4日

昨日の夕方から天気が回復し、今日は素晴らしい天気だ。未明まで強風が吹いていたが、日の出の頃にはかなり静かになっていた。私は、旭岳方面から白馬岳の写真を撮ろうと、みんなが出てくる前にひとっ走り旭岳に向かう。今まで見えなかった鹿島槍ヶ岳も出てくる。白馬岳は今まで見たことがない、ちょっとずんぐりした山に見えた。



あまり時間をかけるわけにいかないで、山頂の手前で引き返す。小屋でみんなと合流し、白馬岳山頂を目指す。山頂は360度の大展望。鹿島槍ヶ岳や槍穂高連峰も見えている。剣岳はもちろん、その右には加賀の白山も見える。北に目を転じると、雪倉岳や朝日岳が見え、東側には頸城山群や戸隠の山々、さらに東から南を見ると、上越方面から四阿山、湯ノ丸山、浅間山、ハヶ岳、富士山、南アルプス、中央アルプスと見える。白馬岳主稜を登る人も見下ろせる。

山頂で集合写真を撮った後は、名残惜しい大展望を後に、下山にかかる。この付近は、好天に恵まれた今日は、天国のように気持ちよい場所だ。風は少しあるものの、昨日の強風に比べたらそよ風だ。少し登り返して、小蓮華岳の頂に立つ。わずかの距離だが、頸城山群が近づいて見える。



船越ノ頭から傾斜の緩い雷鳥坂を下って一面雪原となっている白馬大池の小屋に着く。ここで少し早い昼食タイムとする。ここから先は、まだ歩いたことのない未踏のコースだ。思ったよりも樹木の生えていない急斜面のトラバースなどが多く、なかなか厳しかった。途中の樹林帯で、滑落停止訓練をしてとても良かった。かなり下ってからの斜面で、スリップしかけたKさんが、滑落停止で自分の体を止めた。Tさんの補助もあったが、滑落停止がかなり効いていたようだった。



長い下りを終えて、ようやく蓮華温泉ロッジ

に到着する。しかし、この付近はまだ春には遠く、深い雪に閉ざされている。これでは、タクシーなどとても入れないと思いながらも、小屋の人に聞くと、タクシーは5時間ほど歩いた木地屋の1kmほど上(手前)でないと除雪されていないので、乗れないという。明日は雨の予報だが、雨の中を5時間歩くのはきついが、帰るためには歩かないわけにはいかない。



☆5月5日

夜、林道を埋めている残雪がどんな状態なのか心配で、眠れなくなった時間もあったが、それでも疲れていたなので、十分に寝ることができた。

小屋の方に別れを告げ、雨の中を歩き始める。小屋の方は、もうピッケルは入らないからしまった方が良くと言っていたが、林道にうずたかく積もった雪は、片側が急傾斜で切れて、谷底へと落ちている。踏み跡があるので、滑らずに通過すれば問題はないが、もしも滑ったら滑落停止もできないので、みんなにピッケルを持って通過してもらおう。



何力所かそんな危険箇所を通り過ぎ、ようやく比較的平坦で歩きやすい雪道になってきた。しかし、まだまだ周囲の木々は芽吹き前で春は遠い感じた。展望の良いヒワ平を過ぎると、所々でミズバショウを見かけるようになる。雪解けを待ちかねたようにフキノトウも目を覚ましている。まだ氷が一面残っている白池の周囲はきれいなブナの純林だ。小屋の方から教えてもらったとおり、白池を過ぎたところからauの携帯電話が繋がった。タクシーは1台しかないため、往復するというので、男性陣3人に先に下ってもらう。



タクシーには入れるところまで来て欲しいと依頼したのに来ていない。男性陣はそこで待っていたので、タクシーに出会うまで歩きましょうということで、雪が溶けた舗装道路を痛い足を我慢して歩く。木地屋付近まで来ると、ようやく新緑の木々が増えてくる。タクシーの運転手さんは、奥まで入ることを聞いていなかったと、木地屋で待っていた。

話の通じない運転手さんに説明するのを最

その他事業報告

★活動紹介映写会開催

今年度は、創立10周年記念パーティーの準備や9月に予定されている視覚障害者全国交流登山大会の準備などで映写会の準備ができなかったため、広報などで一般募集を行わず、会員同士の親睦の場として活動紹介映写会を

小限に控え、先発組は駅に着き、姫川温泉に入る。後発組は木地屋の食堂でそばを食べる。



2時間に1本くらいしか走らないローカル線に乗って南小谷に向かう。ここは、上越の上杉謙信が、海のない国に住む敵陣の武田信玄に塩を送ったこと（敵に塩を送る）で有名な塩の道。越後生まれの私は、そんな越後の武将を誇りに思う。自然豊かで、桜の咲くのどかな里の風景を見ながら、そんなことを思い帰途についた。

記：網干

コースタイム

5/3 猿倉(8:35)…白馬尻(10:00)…白馬山荘(16:35)

5/4 白馬山荘(7:30)…白馬岳(7:50-8:15)…小蓮華岳(9:50-10:00)…白馬大池山荘(11:10-12:00)…蓮華温泉ロッジ(14:30)

5/5 蓮華温泉ロッジ(6:30)…ヒワ平(9:45-10:00)…木地屋(12:20)

実施した。

見ていただいた内容は、10年間の歩みのスライドショー（1時間半）と、昨年実施した剣岳、自然と親しむ子ども山登り教室で登った三頭山と北アルプスの薬師岳、10周年記念で行

った八丈島や北穂高岳、そして紅葉の素晴らしかった栗駒山などのビデオを鑑賞した。

各種連絡事項

☆アルプの歌完成

山仲間アルプ設立から10年以上経たことや、視覚障害者全国交流登山大会を主催することなどから、「山仲間アルプの歌」を作ってみました。網干が作詞し、栗谷川氏が作曲しました。詩のみ掲載しますが、曲は定期総会で披露されますので、乞うご期待！

山仲間アルプの歌

～みんな仲間だよ～

山はいつでも迎えてくれる
仲間もいつも迎えてくれる
淋しい時も悲しい時も
いつも静かに迎えてくれる
だから心はいつも山に向かう
あなたも私もみんな仲間さ
僕ら楽しい山仲間

小さな夢を心に抱き
高い頂目指して登る

苦しい時も疲れた時も
いつも心に夢を持つのが
だから私は今日も山に向かう
あなたも私もみんな仲間さ
僕ら楽しい山仲間

私の心は私だけのもの
あなたの心はあなただけのもの
気の合う人も合わない人も
いつも相手の心を思う
だから私は今日も幸せなのさ
あなたも私もみんな仲間さ
アルプのみんな山仲間

△第8回自然と親しむ子ども山登り教室は規模を縮小します

第8回目となる今年度の「自然と親しむ子ども山登り教室」は、子どもの参加が柏樹祐助君と柏樹来弥さんだけとなり、烏帽子岳・箆ノ登山と鹿島槍ヶ岳は子どもの参加がゼロの可能

性が高く、その場合は、「自然と親しむ子ども山登り教室」としてではなく、「共に楽しむ登山」として実施しますので、了解いただけますようお願いいたします。

▲第14回視覚障害者全国交流登山大会にぜひご参加ください

第14回視覚障害者全国交流登山大会の参加申し込みをまだ受け付けています。多くの会員が実行委員となっており、実行委員でない健常者の方にも班長をお願いする必要があり、視

覚障害者の人たちのサポートにあまり余裕がない状態です。今からでも参加していただけますので、可能な方はぜひご参加ください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく申し上げます。(敬称略)

正会員

1人

また、OさんとHさんが正会員から賛助員に変更となりました。

●退会のお知らせ

残念ですが、下記の方が退会及び休会されました。

15人

編集後記

・理事長のつばやき

「山仲間アルプの歌」の歌詞を今回、作ってみたのですが、以前からずっと心に思っていることを歌詞にしてみました。山は、誰ひとり、分け隔てなく、いつでも迎えてくれます。人には、山のような包容力は持てません。しかし、そういう心に憧れ、少しでも近づこうとすることに大きな意味があると思います。以前、立教の学生さんたちに話した二つの夢のうちの一

つ、「こういう心を持ちたいという夢」をいつまでも胸に抱いて、努力することが大切だと思っています。

また、人は「人から思われたい」と思うのですが、自分のことに囚われず、「人のことを思う」方が、幸せになれるはずと思っています。戻る時があっても良い。少しずつでも進んで行けたらな・・・と思います。

・次回発行予定は、9月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝

TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

